

# 信友

信友会事務局

東京都新宿区四谷本塩町4-41  
住友生命四谷ビル  
電話 080-4816-3202

## 今回も大盛況 会員・現役等集い大いに盛り上がる!

### 第五十三回総会及び通信科・信友会合同歓送迎会を挙行

第五十三回信友会総会及び通信科・信友会合同歓送迎会が平成二十九年二月十九日(日)に「第一ホテル東京(新橋)」において盛大に行われました。

陸幕通信電子課長奈良岡一佐の講話に始まり、続いて実施された総会では、平成二十八年度事業報告及び平成二十九年度事業計画等が審議了承されました。

その後、信友会・現役合同の歓送迎会が挙行されました。

歓送迎会当日は東部方面通信群の訓練検閲・

通信学校FOCの合同M

Mへの参加等、現役参加

が厳しい状況ではあります

が、会員・現役をはじめ、関係企業等多く

の皆様のご賛同を得て、

三百二十三名の出席を頂

き、盛大かつ成功裡に合

同歓送迎会を執り行うこ

とが、会員・現役をはじめ、関係企業等多く

の皆様のご賛同を得て、

三百二十三名の出席を頂

き、盛大かつ成功裡に合

同歓送迎会を執り行うこ

とが、会員・現役をはじめ、関係企業等多く

の皆様のご賛同を得て、

陸幕通信電子課長講話

合同歓送迎会

古希お祝い



吉原通信群長を囲んで

吉原通信群長を囲んで  
古希お祝い

急速に進化するICT技術に追いついていない心

信友会会長 田中達浩

信友会会員の皆様、通信・システム等の任務に従事されている現職隊員の皆様、

つがなく平成三十年を迎えてお慶び

申し上げます。

信友会会員の皆様、通信・

システム等の任務に従事さ

れています。

信友会会員の皆様、通信・

## 「戦う通信科」の時代

通信学校長 陸将補 廣 恵 次 郎



信友会会員の皆様には、平素よりご指導、ご鞭撻を賜り心より感謝申し上げます。特に、前職統合幕僚監部指揮通信システム部長在職中は多くの信友会の諸先輩方から暖かいご支援を賜り重ねて御礼申し上げます。

さて、平成二十九年八月第三十九代陸上自衛隊通信学校長として着任致しましたが、着任当日より学校職員に対し以下の三点の意識改革を要望しております。

先ずは、「陸上自衛隊の通信は統合運用のための通信という役割も果たさなければならない。」ということです。最近のミサイル防衛、災害派遣、国際活動に代表される自衛隊の運用は、全て統合運用で実施されており、運用の基盤となる通信の役割は極めて大きくなっています。

二点目は、「陸上自衛隊の通信科職種は、システム通信科職種でなければならない。」ということです。統幕指揮通信システム部長時代に学んだことの一つは、海上及び航空自衛隊のシステムは陸上自衛隊よりも一歩進んでいるということです。今後、陸上自衛隊はシステム通信の防衛力整備、運用・訓練、人材育成をトータルで職種として進めていかなければなりません。その役割を担えるのは通信科職種をおいて他にありません。したがって、通信科職種はシステム通信科職種、通信団はシステム通信団、通信学校はシステム通信学校でなければなりません。

三点目は、「システム通信科職種の一部は戦闘職種、第一線部隊だ。」ということです。陸上自衛隊創隊以来、陸上自衛隊の通信科職種は、「戦闘支援職種」という位置づけであり、指揮の命脈としての基盤を提供するという役割を果たしてきました。しかし、現代戦はその指揮

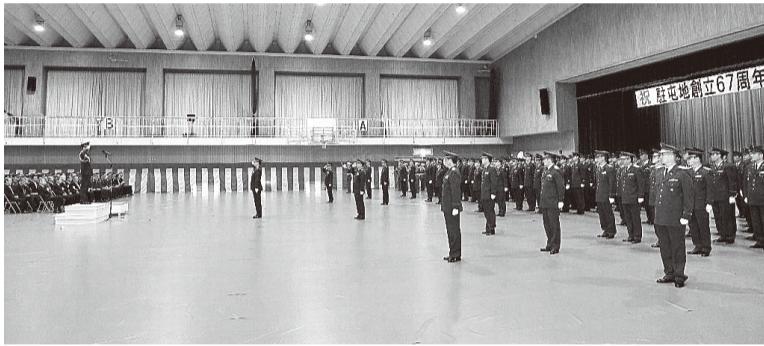
の命脈であるシステムやネットワークそのものが攻撃対象になつてきています。その手段として用いられるのがサイバー攻撃や電子戦です。したがって、近未来に誕生するであろう陸上自衛隊のシステム通信科職種の一部は、「戦闘職種」だということを認識する必要があります。

また、それらの部隊は今この瞬間ににおいてもオンライン上で戦っているという意味においては、「第一線部隊」だと認識する必要があります。米軍の将官の中には、戦いの緒戦はネットワークの切断合戦になると主張している人もいます。また、戦場の勝敗を左右するのは制空権・制海権だけではなく、電波優勢だと主張する人もいます。

米軍においても、自衛隊においてもこれらの戦いの多くの部分を現行の通信科職種が担つていくことは共通しています。通信科隊員の多くが従前の役割である「戦闘支援職種」としての役割を果たしていくことは不变ですが、米軍においても、自衛隊においてもこれらの戦いの多くは、「戦う通信科」という時代の要請も強く意識しておく必要があります。

以上の認識の下、陸上自衛隊通信学校が果たすべき役割と連携しながらしっかりと準備を進めるように指示しております。特に、平成二十九年度末に新編される教育訓練研究本部（仮称）との連携を見据え、先行的に様々な検討を進めているところです。執筆時点の平成二十九年九月現在においては、学校職員一人一人の献身的な努力により、

或いは関係部署のご協力により望ましい方向で検討が進んでいると認識しています。今後も、システム通信科の将来のために、強靭な陸上自衛隊の創造のために学習・訓練遂行のために学校長以下陸上自衛隊通信学校全職員が一丸となつて努力を継続する所存です。信友会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申しあげます。また、日頃、私ども通信団に対し多



久里浜駐屯地創立67周年記念式典

大なご支援・ご協力を賜り、通信団全隊員を代表して心より御礼申し上げます。

大なご支援・ご協力を賜り、通信団全隊員を代表して心より御礼申し上げます。

## 新たな時代に対応する人材の育成

通信団長 陸将補 藤 井 祥 一



信友会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申しあげます。また、日頃、私ども通信団に対し多

おかれましては、益々ご

のため、実務者として必要な知識・技能を横断的に評価する形式及びインシデント・ハンドリング能力を向上する形式で実施しました。

今年度の新たな試みとして、システム防護隊所属隊員に加え、各方面隊において、サイバー攻撃対処に当たることが予定される要員、通信保全監査隊監査隊システム班所属隊員、そして、通信団長である私も参加して実施しました。

システム及びサイバー攻撃等対処に必要とされる人材不足の解消は、今や待った無しの喫緊の課題です。平成三十一年度の新特技への移行をひとつ目のトリガーとして、通信団所属隊員の意識を変え、一人ひとりが「絶滅危惧種」とならないよう自らを進化させ、新たな時代に挑戦するよう隊務を運営してまいります。

最後に、信友会会員の皆様方のご健勝と信友会の益々のご発展を祈念するとともに、今後とも変わらぬ温かいご指導とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

陸上自衛隊の通信器材は、野外通信システムに代表されるように、IPネットワーク器材を中心とするものに変わりつつあります。七九式器材が、「新通」と呼ばれ、幹部初級課程で、それらの教育を受けた私の年代は、もはや、「絶滅危惧種」となりつつあります。

新特技への移行を前に、現行特技との差分を埋め、システムに関する識能を向上させ、「絶滅危惧種」を絶滅の危機から救い、新たな時代に対応させるため、通信団では先行的に移行教育前に各隊員に対し、情報処理技術者等の公的資格取得を推奨しています。

約一年間で、新たに資格を取得した者は、情報セキュリティマネジメント四十名、基本情報技術者一名、ネットワークスペシャリスト一名、データベーススペシャリスト一名、情報処理安全確保支援士二名、SSCP認定資格一名であり、今後も新規に資格を取得する者、更に高度な資格に挑戦する者が増加するよう指導していきます。



平成29年度システム防護隊演習サイバー攻撃等対処

## 防衛関連企業との連携について

陸上幕僚監部通信電子課長

一等陸佐 奈良岡 信一



信友会の皆様には、陸上幕僚監部通信電子課に対しまして、常日頃から暖かいご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成二十八年十二月に第二十代の通信電子課長に着任し、はや一年が経過しました。歴代の通信電子課長をはじめ諸先輩方の築いてこられた業績を引き継ぎ、陸上自装備行政の中枢としての役割を十分に果たせるよう部下隊員とともに日夜奮闘努力しておりますが、皆様には、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、自衛隊を取り巻く安全保障環境は、皆様ご案内の通り、近隣諸国の我が国周辺での活動活発化、大規模震災の発生の恐れ及び異常気象による災害など、いつ何が起こらないとも限らない状況にあります。このため、今に即応し明日に備える態勢を保持することが必要であり、特に、兵站業務の実効性の向上が重要です。このようないくつかの認識の下、継続して作戦を遂行できる基盤を確立する視点から、防衛関連企業との連携について、所感を述べたいと思います。

最初は、「装備品等の高可動率の維持」に関する連携です。前職は、補給統制本部通信電子部長であり、陸上補給整備業務の中核として勤務しましたが、交換部品等の製造中止や部品製造に長時間を要し、長期間不可動状態となっている装備品等が少くない現状から、平素から作戦間を通じた高可動率の維持は、部隊の任務遂行に影響を及ぼさないための喫緊の課題と認識しています。このため、代替品選定や調達リードタイム短縮などの官民調整を緊密にすることが重要です。また、近年では高度な技術により製造された電子機器が多く含まれていることから、障害の原因が野整備部隊でも判定できない場合があり、企業の現場進出による診断・修理で復旧せらるなどの処置も必要です。この場合は、緊急時に直ちに現場進出できる態勢を企業側に確立して頂くことが必要であり、そのための役務契約等について連携することが

重要です。このような現場進出は、二十八年の熊本震災や伊勢志摩サミットなどで成果がありました。今後検討すべき課題（特に有事の対応）もあり、継続して連携していくことが必要です。

次に、「装備品等の不具合等への対応」に関する連携です。装備品等を使用すれば、何らかの不具合は発生します。取り扱いミスや単なる故障であれば修理等で解決しますが、部隊運用への支障或いは安全管理上、使用を停止せざるを得ないなどの不具合は、部隊・隊員に安心して使用して頂く観点から、早急に原因を解明し、必要な改修を行うことが必要です。改修に当たっては、陸上幕僚監部及び企業により改修方針を決定し、改修に必要な予算を確保し、全数改修完了に向けて、官民一体となつた緊密な連携が必要です。近年では、平成二十八年度から補給統通電部において、野外通信システム官民調整会議を定期的に開催し、成果を得ているところです。



陸上装備フォーラム通信電子分科会(29.3.1)

## 補給統制本部の取り組み

補給統制本部副本部長

陸将補 河本宏章



信友会の皆様、いつもお世話になり本当に有難うございます。

ふと気が付くと、いつの間にか現役通信科隊員の最上級生になっていました。私は通信科部隊等で勤務したのは古い順に、東部方面通信群での小隊長、通信学校研究員、第六通信大隊長のみであり、通信科隊員としてここまで育てていただいたにも拘わらず、通信科のためにほとんど貢献できていないことを深く反省し、そう遠くない退官後もし信友会に入会させて頂けるのであれば、それから通信科のために相当な恩返しをしなければならないなと思う今日この頃です。

今回、現補給統制本部の取り組みの一端を紹介させて頂きたいと思います。

現在の情勢をみると既に平時とは言えない状態にあり、すぐにでも作戦に必要な補給品の緊急増産に着手すべきではないかと思えるほどです。その様な中「作戦準備に時間的余裕があつた冷戦期とは全く違い、何がいつ起るかわからない状況の中、作戦基盤が不十分な地域で戦闘する第一線部隊に、必要な補給品を必要な時期に必要な量だけ届く態勢を整えるために今なすべきことは何か」という問題認識を有しています。

そのために、①今部隊が保持している装備品等の可動率をいかに効率的に高めるか。②少しでも時間があるうちに必要な物を備蓄するためにはどうすれば良いか。③物に不足が生じた場合、どこを優先し優先しないところはどれだけ我慢するか。などを検討し施策化することが必要であるとの考え方の下、関係部署との認識共有を図り次期大綱・中期に繋げていけたらと思っています。

二つ目は、「限られた予算をいかに効率的に使用するか」ということです。ここ数年外国から主要装備品を導入する必要性もあり、後方経費も三国予算が増加傾向にあるため、部品の調達にもこれまで以上に長期間を要するようになっています。したがって、これまでの実績値からの予測によるだけではなく、将来の故障を予測して

部品を調達する必要性が増加しているのです。補給管理系统に蓄えられた膨大なデータの活用と併せてメー

カーレの皆さんからのご協力も頂いて、予測値の精度向上を図る施策に着手したところです。また、国庫に返納する予算を局限するため、契約時期や納期を早める努力とそのための関係者との緊密な連携にも取り組んでおります。

三つ目は、「いかに兵站支援能力を向上させるか」であり、補給統制本部が主催するCPXや実動訓練により、補給品の梱包要領や現地での受領要領など細かい点も検証して実効性のある計画を作成し、部隊の作戦を真に支え得る兵站支援態勢の構築に取り組んでいます。

以上、取り組みの一端を紹介させて頂きましたが、これからも信友会の先輩方々からたくさんのご指導・ご鞭撻を賜り、精進して参りたいと思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



十条駐屯地内の桜並木

## これから時代の期待に応えられる 通信科部隊・隊員となるために



通信学校第一教育部長（前東北方面通信群長）  
一等陸佐 小 松 広 志

信友会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申上げます。また、日頃から我々通信科部隊等・隊員に対しまして、多大なるご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、皆様ご承知のように、現在陸上自衛隊は、現防衛大綱においてうたわれている「統合機動防衛力」実現のため、「即応機動する陸上防衛力」の構築を目指し、「創隊以来の大改革」を行つてゐるところです。その中には、「機動展開能力の向上」、「水陸両用機能の整備」、「陸自中央指揮機能の強化」などともに、「情報・通信態勢・体制の強化」があり、いわゆる「情報の戦力化」という要素が入つていています。

実質的改革の初年度とされる平成二十九年度末には、陸上総隊司令部新編・機動師団・旅団（即応機動連隊新編を含む）への改編、水陸機動団新編・教育訓練研究本部新編などが予定されるとともに、システム通信関連部システム通信課新編、通信団のシステム通信団への改編が予定され、平成三十年度以降には、方面隊レベルでの関連改編が予定されています。

「統合機動防衛力」や「即応機動する陸上防衛力」における作戦基本部隊等の戦い方の重要なコンセプトの一つに、陸自としての火力減勢の趨勢の中、真に「情報の戦力化」が求められることがあります。従来から、米軍の戦い方なども参考にして「情報優越の獲得」の概念はもちろんありました。しかし、長い間、実効性のあるものはなかつたように思います。しかしながら、今回の陸上自衛隊の大改革における新たな作戦基本部隊等においては、真に「情報優越の獲得」による「情報の戦力化」が求められ、オペレーションにおいて、システム上で、COP (Common Operational Picture : 共通状況図)などを活用した迅速で正確な「状況の把握」や「目標等情報の共有」を実現し、センサー・トゥ・シユーターズなど（各種のセンサー等による目標等情報の獲得・状況把握・情報共有から迅速な決心・迅速・正確で最適な火力発揮等に至る作戦戦闘の大サイクル）を実現した戦い方が求められます。



通信群長として総監訓練検閲受閱時のひとコマ

ための「指揮通信」の確保の重要性はそのままに、更に、陸上自衛隊が真にCOPなどを活用して、言わば「システムで戦う」ことができるようになるための「システム通信」を提供することが求められ、「情報の戦力化」を支える「システム通信」へ進化することが求められています。これらの陸上自衛隊は、「システム通信」をもつて「オペレーション」を遂行するため、それらを含む大きな作戦ネットワーク環境をターゲットとした攻撃等である「サイバー攻撃」や「電磁スペクトラム作戦 (Electromagnetic Spectrum Operations : 電子戦含む)」等への対応もまた、今後ますます、重要な任務となつていくと思われます。

これらの陸自の大改革・システム通信の変革の時代へ対応していくためには、まず、我々陸自システム通信に携わる者として部隊が「意識を改革」し、「能力を向上」させることが必要です。一般通信部隊においては、練成訓練・OJT等によって、学校等においては、基本教育を通じ、それらを実現できる人材として部隊を育成していく必要があります。具体的には、我々通信科部隊、

通信科部隊として、通信ネットワークに関する能力に加え、システムに関する能力、サイバーに関する能力、電子戦をいかなければなりません。具体的には、我々通信科部隊、

## 陸上自衛隊通信電子の現況

### 一 はじめに

(一) 我が国周辺を取り巻く安全保障環境は、様々な課題や不安定要因がより顕在化しており、一層厳しさを増しています。特に、北朝鮮による核兵器・弾道ミサイル開発や、中国による南シナ海等における緊張を高めるような行動は、我が国を含む地域・国際社会の安全に対する重大かつ差し迫った脅威となつており、多くの課題を残しています。また、近年多発するサイバー攻撃は日々高度化・巧妙化し、サイバー空間の安定的利用に対するリスクが増大しています。このため、我が国においては、いかなる事態においても国民の命と平和な暮らしを守り、国際社会の平和と安定にこれまで以上に積極的に貢献するため、自衛隊に対する国民の期待と要求は更に高まつていいものと考えられます。

(二) このような中、陸上自衛隊は、体制移行の途次に事態においても国民の命と平和な暮らしを守り、国際社会の平和と安定にこれまで以上に積極的に貢献するため、自衛隊に対する国民の期待と要求は更に高まつていいものと考えられます。

このため、我々は、そのような状況・時代環境に対する新たな「認識」を保持し、従来からの「意識を改革」して、我々通信科部隊が、それぞれの地位・役割の中で、通信科部隊・隊員の新たな「システム通信に係る任務完遂力」の確保として強化へ向けた「挑戦」をしていくことが必要であり、私としてもその地位・役割に応じ「時代の期待に応えられる通信科部隊及び隊員・人材の育成」に引き続き尽力して参る所存です。

今後とも、信友会の皆様には、我々に対する倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

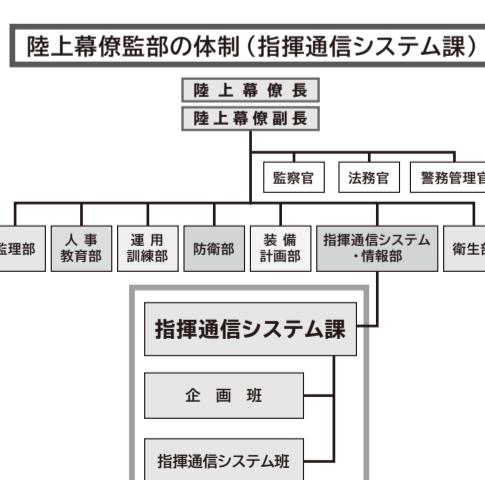
### 三 主要通信電子器材等の整備

平成二十九年度は、引き続き野外通信システムの骨干装置（アクセスノード装置・バックボーンノード装置）と広帯域多目的無線機（通称「広多無」）等を第六師団、水陸機動団、通信教導隊等に導入して、野外のネットワークインフラとして迅速かつ的確な情報の伝達・共有等を行うための能力を更に強化します。また、衛星幹線通信システムの可搬局装置を第二師団、第七師団、第十二旅団等に導入し、即応性を更に向上させます。

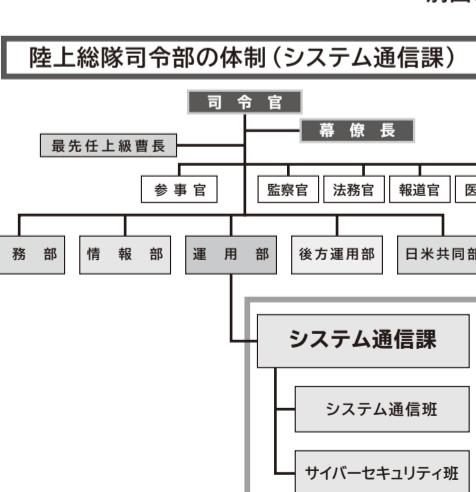
### 四 おわりに

今後、次期中期防に向けたシステム通信能力の強化に係る総合的な検討が行われる予定です。通信電子課としても、同検討に積極的に取り組むとともに、陸自のC4ISR分野の充実発展に日々努力して参る所存ですので、信友会会員皆様のなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 別図1



### 別図2



## 陸幕通信電子課

# 七十歳を超えて (雑感)

会員吉田義輝



先ず私は投稿の機会を与え  
ていただき、信友会会長及び  
役員の方々に御礼申し上げま  
す。折角の機会でありますの  
で、拙文ながら日頃気になっ  
ていることを書いてみたいと  
思います。

この頃です。  
信ずる者は救われるという俗説が有るようですが、お

さて、私は陸幕勤務時代に防衛計画（通信）を担当しておりましたがその頃の予想ではこれからは宗教対立、民族対立、テロ等々の脅威対処が重要になつてくると言つておりました。当時の私には具体的なイメージが湧かなくて理屈上はそうなるだろうと言つた程度の理解でしたが、何と今や世界中がこれに翻弄されております。世界の人々の日々の平和と安寧をもたらしてくれる宗教が今や真反対の現実を突き付けております。私は宗教に名を借りた殺人者の犯罪行為だと理解することにしております。人の負の部分をむき出しにするのは貧困、人種差別、間違った教育又は無教養、個人的欲望等々が要因だと思いますが、これらの問題の解決には心ある人々がしぶとくこれに向かい合う事しか解決策は無いと思つます。勿論自衛隊の存在と行動はこれに大きく貢献すると思います。信じておりますしそうなければならぬと思つております。

国内外での活躍が著しい自衛隊ですが、日本の過去の失敗を教訓としながら、国土、国民の守りを第一義に今後とも活躍を願う次第であります。

## 更生保護及び更生保護施設について

会員 永田 豊明



# 地域の絆と自主防災活動について

## 会員川本収

# ありがたき「縁」と「円」

会員 荒由美子



信友会会員の皆様におかれましては精力的に毎日をお過ごしの事と拝察申し上げます。今回私が大切で不思議に思う「縁」について話します。

「縁」とは生きている中でお互いがお互いを認知する出会いですがお互いを認め合う事で、お互いの心の繋がりが生まれます。この繋がりが「縁」です。

更生保護施設の役割は、宿泊所、食事を提供するだけではなく、対象者が社会に適応するために、①安心して自立準備に集中できるような生活基盤の提供、②日常の生活指導のほか、地域社会の一員として円滑に社会復帰するための指導、③自立に向けた就職の指導や援助、院内蓄管理の指導、退寮後における住居の調整・指導、就職支援、福祉や医療機関への橋渡し等、④処遇専門施設として、生活指導訓練、酒害・薬害等の依存症教育、特別な補導・援護処置等を行い、その再出発を支えています。今後は、更生保護の世界も、高齢化や知的・身体・精神障害のある人の増加に加え、刑の一部執行猶予制度が開始されたのに伴い、覚せい剤等の薬物依存症者の受け入れ・補導するための職員の増加や、それらの専門知識能力の向上が急務になることでしょう。

おわりに、定年までは、国防の任に一身を捧げ、今は社会の安全と安心を守り、罪を犯した人が一人でも多く更生・自立できるように全力で支援しています。

世の中には、いろんな環境で育つた人がおり、誰でも大なり小なりの失敗はするものです。それらを温かく見守つていきたいと考えています。

務所からの受け入れ調整・確認)、③更生緊急保護(中期を終えた方への支援・助言)、④恩赦、⑤犯罪予防です。更生保護を担う国の機関は、法務大臣の下に法務省監護局、地方更生保護委員会、保護観察所並びに支部、時事在官事務所が有り、これを支える民間ボランティアとして、BBS会、更生保護女性会、保護司、更生保護法人協力雇用主があります。これらと連携を取る民間の施設が更生保護施設で、更生保護法人等が運営し、全国に百三ヶ所あり、最近は、福祉法人、NPO法人の更生保護への参入がみられます。

う。縁があつてこの道を歩み始めて十三年目、氣づけば更生保護施設の施設長を拝命し、九年目。いずれの時代もそうでしたが、今が最も満足しい充実した日々を過ごしており、陸上自衛隊で培つた生活の集大成となる仕事をしているような気がします。更生保護とは、犯罪をした人、非行のある少年を再び犯罪や非行をすることなく、社会の一員として立ち直りようのように支えること。また、犯罪や非行が起らぬような地域社会を築いていくことで、その内容は、①四見峯（三古代記）の筆記（力言葉）、②三古五萬鏡（周々刊）

ければ道が開ける事が大事と改めて認識した。  
地震列島日本、今大地の恵みが一転し、熊本に未曾有の被害をもたらした本地震に胸が痛みます。全国から預いたたくさんの支援に感謝し、一日も早い復旧・復興を目指す願うばかりです。本地震を体験し、地域の絆と備えが大事と改めて認識しました。今後は、隣保班単位の安否確認と緊急連絡網の整備等を図り、もう来ない事を祈りつ來た時に備えたいと想います。

話は本震後に戻るが、公民館が給水ポイントとなり多くの避難所として運営しつつ支援物資を毎日午前十一時までに配給した。又、ゴミ問題が発生したので、市に借りて約千三百m<sup>2</sup>を市から借りて臨時のゴミ置き場として活用した。熊本県中央部の約十八万人が被災していたが、地震発生から数日間は自衛隊の活動が益城町等に集中して行った。駒不足でしかたないと思ったが、ジープの一台でも被災地を走ってくれると住民がどれだけ安心するかと思つていた頃、私は臨時のゴミ置き場に当番で立つた。その時、若い頃約十年間勤務した帯広第五旅団のジープが目の前を通過した。思わず走つて追いかけたところ、約一km先まで進んだジープが戻つて来た。駆け寄り風呂は持つていますかと聞いた所、持つているとのこと。その後、調整により近くのスポーツセンターに風呂が開設され、第五旅団に交付。まことに、この日は、この日は

した。他の自主防災組織の役員も、次々に駆けつけ、住民約三百人程が公民館前に避難しました。安否確認等を開始し、三時間後に住民の無事等を確認、災害用毛布等を支所から受領し避難住民への配布や野外用トイレを構築した。市の給水車二台が到着、皆で協力し、暗い中飲料水を袋詰めし、明るくなつてから住民に配布した。余震が続いた中、本震の夜は防災本部を開設していたので公民館で寝ていました。前日より大きな強い揺れが襲い公民館から出ました。その後、前日と同じく夜に避難しました。

プライベートではこれまた「縁」から「縁」が繋がり色々なジャンルの方々と出会い世界を広めています。「縁」あつて出会つた方々から本当に沢山の宝物を頂き感謝。自衛隊時代から出会つて今もなお多くの宝物を送り続け下さる上司、先輩、同期に後輩。そして新たな出会いで益々増えていく宝物。「縁」が更なる「縁」につながっていくと「円」になります。「縁」が切れると「円」になります。皆様も「縁」あつて出会つた方々と久しくお会いしていなければまた連絡してみてはいかがですか?それと、今まで誘われっていても躊躇して出かけていなかつた所にどんな素晴らしい「縁」があるかもしれません。ちょつとお出かけしてみませんか?一例をあげると、年に一度の「信友会」の懇親会。場違いと思っている方、面倒くさいと思っている方がいたらそれは大きな間違いです。「縁」「縁」「縁」がウジヤウジヤいて「円」(お金の事ではありません)になる通信科メンバーの集まりです。通信科だけに「縁」というツールを切らすことのないようになりますか?大小濃淡良悪に問わらず「縁」は有り難きものだと、私は今日も「縁」を大切に人と関わっています。

突破しかねない私は何度も玉碎となりその都度周りの人は「しようもない」と言いつつも私の骨肉を飽きもせぬまま捨てもせず拾い集め元通りの姿に戻してくれ「さあまた行け」と背中を押してくれました。「縁」あつて出会つた人がいたからこそ無事に終えることが出来たのです。今は「一般財団法人年金住宅福祉協会」で住宅ローン（厚生年金の転貸融資）返済困難な延滞者の返済相談や再生計画の助言をしています。ここでの「縁」はその方達の人生を左右する立場で、この「縁」が良きものとなるよう必死です。今日食べることにも窮し眠る間もなく毎日ダブル・トリプルワークで家を守ろうとしている人達が、「ありがとう」「荒さんが担当で良かつた」と言つて下さると私の方が様々な人生を学びさせて頂け感謝の気持ちでいっぱいになります。

# 事務局だより

## 一般

信友会事務局では平成二十九年度も会長・副会長の指導のもと、熊本地震に伴う臨時役員会を含め年間六回の役員会を開催し、総会・合同歓送迎会業務を中心に行なってまいりました。

## 二 地区懇親会の開催

会員相互の親睦を目的とした地区懇親会を各方面通信群等のご支援を戴きながら開催しております。

平成三十年度は、三月に西部方面通信群創立記念行事に併せて開催いたしました。

## 三 信友会会員増加施策

信友会会員は、平成二十八年十二月末現在で総数九百四十六名となり、千名を切る状況となりました。これに伴い、平成二十九年度から信友会会員増加施策を推進しております。



三尉候補者課程修了時の表彰

### 〔編集後記〕

最近の役員会では、総会・合同歓送迎会の準備に関するのみではなく、会の魅力化施策、個人情報保護法への対応、ホームページの充実、更には印刷業者の変更等活発な議論が展開されています。御世話になつてゐる会社の仕事をこなしながらも、信友会の歴史の一端を担当することに喜びと苦悩を織り交ぜながら頑張つてゐる姿は、現役時代には見られない絵姿です。

不易流行とまでは言いませんが、時代の流れに晒されて悪戦苦闘をしているものの、今後も各係の立場を相互に理解し役員の力を組織的に組み合わせて乗り越えていきたいのです。いや、きっと乗り越えられます。(O)

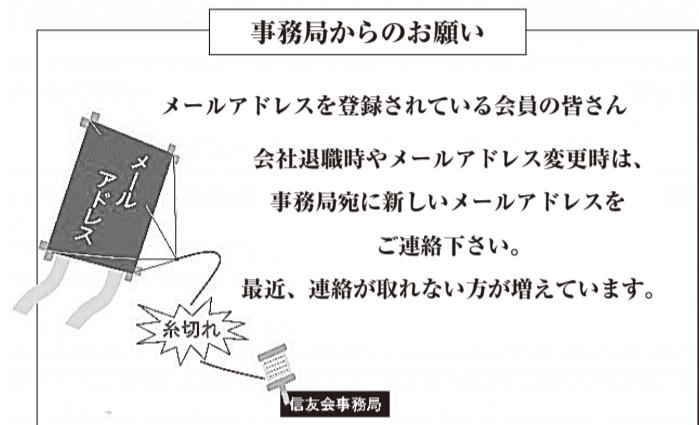
## 四 信友会ホームページの維持・拡充

今後も信友会活動をより充実させ、通信科幹部が定年退官時に、信友会への入会意欲が醸成されるよう努力して参ります。

五 信友会役員紹介 (*印 新任)	
〔会長〕	田中達浩
〔副会長〕	時津憲彦
〔総務〕	長・梁池雅彦
〔機関紙〕	長・須藤二男
〔会計〕	花田順一朗・笛木明仁 (*)
〔名簿〕	島田義文・繩義生・白井一弘 (*)・森田康弘 (*)
〔監事〕	長・進藤進 (総務から転任)
〔監事〕	長・後藤高弘
〔監事〕	長・山中隆義
〔監事〕	長・新居久佳 (名簿から転任)

訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます  
(H28.12.02~H29.12.01)

氏名	逝去年月日	住所
高久 久雄	H23.06.20	東京都
香川 照男	H24.03.13	香川県
今村 秀敏	H26.12.10	長崎県
平井 咸司	H28.05.12	東京都
林田 一郎	H28.06.29	埼玉県
清藤 健	H28.07.16	熊本県
坂井 協司	H28.10.18	神奈川県
竹花 通明	H28.10.31	岡山県
井上 秀夫	H28.11.11	東京都
浦江 幸彦	H28.12.07	埼玉県
保田井 秀明	H29.01.07	神奈川県
河内 加賀	H29.01.11	埼玉県
塚本 弘満	H29.01.26	東京都
田中 稲雄	H29.03.23	鹿児島県
小田 啓一	H29.04.06	埼玉県
石田 清善	H29.04.21	宮城県
河野 貞三	H29.06.22	東京都
井之上 雅春	H29.08.09	埼玉県
川口 紘二	H29.08.10	北海道
高橋 行雄	H29.08.13	青森県
飛渡 洋三	H29.08.28	東京都
鈴木 利孝	H29.11.13	東京都
中里 義弘	H29.11.13	神奈川県



ホームページのURL <http://信友会.jp/>  
メールアドレス shinyukai@tune.ocn.ne.jp

## 平成29年叙勲おめでとうございます

春			
瑞宝中綬章	持田 修	元北部方面総監	
瑞宝中綬章	佐伯 義則	元第8師団長	
瑞宝小綬章	山根 健次	元通信学校副校長	
瑞宝双光章	住永 靖生	元第105通信運用大隊長	
瑞宝双光章	坂本 孝博	元西部方面通信群	
瑞宝双光章	中尾 福重	元中央基地システム通信隊	
瑞宝双光章	橋本 和也	元中央基地システム通信隊	
秋			
瑞宝小綬章	久井 烈	元通信学校副校長	
瑞宝双光章	初塩 進	元中央基地システム通信隊	

## 平成29年度信友会会計報告

(H29.01.01 ~ H29.12.31)

(単位:円)

収入	支出
前年繰越 2,361,509	慶弔費 132,800
終身会費 230,000	郵便等事務費 89,908
通信等事務費 126,000	印刷費 630,934
利息子 4	原稿料 33,742
第53回総会残金繰入等 3,621	地方交付 50,000
	手数料等 9,750
	次年度繰越 1,774,000
計 2,721,134	計 2,721,134

以上とおり報告します。

信友会会計幹事

平成29年12月31日

山中 隆義

濱田 正徳

監査の結果、異常ありません。

信友会監事

平成29年12月31日

進藤 進

新居 久佳

氏名	最終所属	入会年月日	現住所
鴨 明彦	通信団本部	H28.12.25	埼玉県
森 浩之	通保監隊	H28.12.25	埼玉県
北島 芳久	中方通群	H29.02.06	東京都
泉 裕	北方指訓隊	H29.02.16	広島県
千頭 正明	通信団本部	H29.03.08	埼玉県
白井 一弘	防衛装備庁	H29.03.26	神奈川県
川瀬 昌俊	防衛装備庁	H29.03.30	京都府
津田 芳明	関西補給処	H29.04.07	大阪府
藤田 英雄	シス開隊	H29.04.13	東京都
川本 収三	西方通群	H29.04.18	熊本県
光井 章	通信団本部	H29.05.19	埼玉県
木下 千敏志	相馬原業隊	H29.05.16	兵庫県
高山 正広	東方通群	H29.05.16	東京都
高橋 修	2通大	H29.08.06	北海道
瀬戸口 博昭	3通大	H29.05.30	兵庫県
熊田 栄	通信団本部	H29.06.12	埼玉県
磯脇 巍	中方通群	H29.06.22	兵庫県
中内 裕	通信学校	H29.08.01	東京都
森田 康弘	通信団本部	H29.09.05	東京都
滝口 龍治	通信学校	H29.08.07	千葉県
笛木 明仁	幹部学校	H29.08.07	東京都
水上 義仁	中基シ隊	H29.08.31	埼玉県



合同歓送迎会新入会員紹介